

大阪大学大学院薬学研究科 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する情報公開

1. 研究課題名	肺癌臨床検体を用いたpatient-derived cell (PDC)とpatient-derived xenograft (PDX)の作製と創薬研究
2. 研究責任者 (所属・職位・氏名)	大阪大学大学院薬学研究科・特任教授(常勤)・辻川和丈
3. 倫理審査と承認日	【承認日】2023年11月9日 【審査】大阪大学大学院薬学研究科・薬学部臨床研究倫理審査委員会の審査を受け、研究機関の長の承認を得て実施する。
4. 研究実施期間	2023年11月9日～2027年3月31日
5. 共同研究機関および 各施設の研究責任者 (※多機関共同研究の場合記載)	和歌山県立医科大学 第1外科 准教授 平井慶充
6. 研究の目的・意義	現在わが国では3人に1人が癌と診断され、2人に1人が癌で亡くなっている。令和2年の厚生労働省人口動態統計によれば、死亡者数約137万人において悪性新生物が原因で約39万人が死亡し、その内気管、気管支および肺の悪性新生物での死亡者が約75585人と最も多い。また全世界の癌死亡者数を見ても肺癌がトップを占めている。現在、肺癌の治療薬としては抗癌剤とともに変異遺伝子や融合タンパク質を標的とした分子標的治療薬が使用され、有効性が認められている。しかしながら、まだ約30%の症例でそのような変異や融合タンパク質が同定されておらず、有効な分子標的治療薬が利用できない肺癌患者が存在する。このような背景において、本研究では、肺癌の外科的切除標本を用いたin vitro patient-derived cell (PDC)の構築とin vivo patient-derived xenograft (PDX)マウスの作製を行い、その特徴化解析により肺癌の治療創薬研究を展開することを目的とする。本研究の進捗により肺癌の新規治療研究への開発進めば、肺癌患者に計り知れない恩恵がもたらされると期待できる。
7. 対象となる試料・情報、その取得期間、利用方法	和歌山県立医科大学病院第1外科で、倫理審査承認日から2027年3月31日までに肺癌と診断された患者の摘出された腫瘍ならびに患者背景
8. 利用または提供する試料・情報の項目	術後肺がん組織ならびに非がん組織と患者情報：年齢、性別および臨床関連情報(診断名、病期、EGFR変異情報など)
9. 研究対象者またはその代理人の求めにより、研究対象者が識別される資料・情報の利用または他の研究機関への提供を停止すること及びその方法	ご自身の試料・情報を研究に利用されたくない方は、連絡先までその旨お知らせいただければ研究対象から削除する。また研究対象者は「同意撤回」により、研究協力をいつでも途中で止めることが可能。またそれによって不利益を被ることもない。
10. 研究資金・利益相反	科研費 AMED生命科学・創薬研究支援基盤事業(BINDS) 民間企業共同研究費
11. お問い合わせ先	大阪大学大学院薬学研究科 附属化合物ライブラリー・スクリーニングセンター 特任教授(常勤) 辻川和丈 e-mail: tujikawa@phs.osaka-u.ac.jp, 電話番号: 06-6879-8190